

学生の時に見つけるべきもの

平成21年専攻科修了 電気電子工学科 41期

村山 大樹

私は平成20年に本科の電気電子工学科を卒業後、専攻科、大学院を経て、現在は、本田技術研究所 2 輪R&Dセンターで二輪の設計・開発業務に携わっています。開発なんて偉そうなこと言っても、まだ就職して2年目の下っ端で、こなすどころか仕事に追いかけまわされる毎日なので、学生のころ思っていたことと、今とこれからについて学生のころの経験がどのように影響しているかを1/1の体験をもとに、「学生の時に見つけておくもの」を文章にしてみようと思います。

思い返してみれば、高専に入学する時に考えていたことは、「5年間適当に勉強して、大企業行くんだ！」なんて、今どき誰でも考えていそうな軽い気持ちを持っていました。成績は万年中の中。5年間馬鹿ばかりやっていました。しかし、就職活動は突然やってくるのです。4年になると、これまで養われる側だったのが全く逆の立場になるための第一歩を踏み出すために、自分の仕事・食いぶちを探すんだ！！と一斉に号令がかかります。そんなこと言われたってやったこともないのに分かんないよ！攻めの進学だ！（就職から逃げた感も否めませんが）と専攻科で、好きでもない勉強を続けることを決めました。専攻科ではバイクに乗り始めて、学校かバイトかバイクのヘビーローテーションでした。とにかく、やることやるとけば自由時間が多くて最高でした。

専攻科に入ってもあつという間にまた就職活動の号令が、かかるかと思いきや、なんだか自分次第で、どこを受けるにも自分で動いてバンバン進めないと企業は待つてはくれませんでした。（この時、高専の学生は世間の就職活動には盲目すぎることを実感しました。）攻めの進学だ！（二度目）。研究を真面目？実直？にやっていたこともあり、九工大の研究室に拾って頂くことができました。そこでも、バイクか研究のどちらかを常にまわしていました。大学院もたった2年しかありません。またまた就職活動です。三度目はもうありません。大学院に入った1年目からインターンシップ・企業研究とあの手この手で就活にいそしみ、見事内定を得ることができたのです。この経験を振り返ってみると、いろいろなことが見えてきます。一つ目は5年間が全てではない、チャンスは多く眠っている。ということです。もう一つ、就活中にも入社後も盛んに耳にする「高専卒は良く動く」という言葉です。5年間の教育の中には、ただ、しかれたルールを、いい意味で"適当"に走るだけで、大卒レベルの「基礎知識」と「行動力」が自動で身に付いていることの裏付けだと思います。知識がないと動けないし、頭でっかちでも動き出すことはありません。実験・専門科目・校風、いろいろと学生のころは気づけない良いところが高専にはたくさんあります。逆にそういうことを自分から身に付けようと頭を使わなくてもいいかもしれません。じゃあ、高専生活で他に何を見つけるのか。友達です！他の学校にはない時間的長さの中で、同じ教育を受ける仲間ほど心強いものはありません。レポートとかレポートとか。こ

れは冗談として、高専時代も専攻科時代も大学院時代も、頼れて、一緒に馬鹿をできるいやつがたくさんいました。何かと助け合っていました。今でも交友は深いです。みんな地元は鹿児島なので、結婚式の度に毎回帰ってくるのはお財布が辛いですが(笑)。学生のみなさんも一緒に夢を追えるような素晴らしい仲間を作ってください。そう、あともう一つ付け加えるとすれば「夢」です。前に進む強い原動力になってくれます。私の夢は世界グランプリを走る二輪に技術者として携わることです。世界一速いバイクを手掛ける。気合いと根性で絶対に成し遂げます。そうなったらまたこんなところ行って、こんなこと学んだ、とかこの場で書かせてもらえたら幸いです。学生のみなさん、これからも楽しく学生生活を謳歌してください！！